

平成25年度 現代文（2年）シラバス

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	現代文	単位数	2	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	第一学習社 高等学校 改訂版新編現代文				
副教材等	なし				

2 学習目標

・基礎的な語彙，漢字，表現技巧を学び自由に活用できる力を養う。 ・さまざまなジャンルの文章に触れ，読み味わうことで語彙力，読解力を身につける。また読書をする喜びを体験し，視野や思考の幅をひろげ，自らの考えを深める。 ・自分の考えと意見を表現できる語彙と表現力を身に付け自己アピール，コミュニケーション能力を高める。

3 学習方法

① 教科書を繰り返し音読する。 ② プリントを用いて漢字の練習を行う。 ③ ワークシートを利用し読解を深める。 ④ 作者の他の作品を読み味わい読書の幅を広げる
--

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	オリエンテーション 自己を見つめる 『自分を知ることがいちばんおもしろい』	・1年間の学習計画を理解する。 ・「自己とは何か」という問いをとおして、他者や世界とのかにつきあうかを考える。	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字練習プリント，ワークシートの提出。 ・辞書等を用いて，正しく表現できたか。
	5	小説を読む（一） 『雨傘』	・小説を読むことが、生徒自身の体験と密接に結びつくものと気付く。	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字練習プリント，ワークシートの提出。 ・辞書等を用いて，正しく表現できたか。
	6	身近な発見 『わざわざ書く』	・身近にあるもの・ことを例に用いた文章を読み、エッセイを読む楽しさを知る。	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字練習プリント，ワークシートの提出。
第2学期	7	言葉と思索 『我らが内なる「虫」』	・文章の流れを正確にとらえさせ、具体的な事柄から抽象的な内容への移行を把握する。	・辞書等を用いて，正しく表現できたか。
	9	人生の風景 『出島のチューリップ』	・文章を読み、今までの人生の中で心に残った「風景」を考え、説明する。	・正しく内容が理解できたか。 ・漢字練習プリント，ワークシートの提出。 ・辞書等を用いて，正しく表現できたか。
	10	創作の楽しみ 『短歌と俳句』	・近現代短歌・俳句に親しみ、情景や心情を把握し、より深く味わう鑑賞のしかたを身につける。	・短歌・俳句を味わうことができたか ・意欲的に作業に取り組むことができたか。
第3学期	11	現代と世界 『ステレオタイプの危険性』	・文章の構成を把握し、抽象的な事柄に対する理解を深める。	・文章の構成，内容の理解がなされたか。また語彙を理解することができたか。

期	12	小説を読む（二） 『ナイン』	・人物の言動から性格・心理などについて、的確に把握する。	・漢字練習プリント，ワークシートの提出。 ・内容を理解することができたか。 ・漢字練習プリント，ワークシートの提出。
第3学期	1	詩を味わう 『汚れちまった悲しみに…』 『生命は』	・詩を音読し，音感のもたらす効果を考える。 ・詩の基本的な文体や構成，韻律などを理解する。 ・散文と詩の違いについて考える。	・意欲的に音読に取り組み，詩のリズムを感じようとしたか。 ・詩について正しい知識を身につけることができたか。 ・プリント，ワークシートの提出。
	2	小説を読む（三） 『鼻』	・主人公とその周辺の人物達の変化を踏まえ，人間心理や人間関係などについて考える。	・文章の構成，内容の理解がなされたか。また語彙を理解することができたか。 ・漢字練習プリント，ワークシートの提出。
	3			

5 学習評価

評価の観点及び内容について

以下に示す五つの観点に基づき，学習内容のまとめりに評価を行い，学年末に5段階の評価に総括します。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに，国語を尊重してその向上を図ろうとしている。
2 話す・聞く能力	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして，自分の考えを深め，発展させている。
3 書く能力	必要な情報を用い，相手や目的，課題に応じた適切な表現による文章を書き，自分の考えを深め，発展させている。
4 読む能力	近代以降の文章を的確に読み取ったり，目的に応じて幅広く読んだりして，自分の考えを深め，発展させている。
5 知識・理解	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め，知識を身に付けている。

平成25年度 古典講読のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	古典講読	単位数	2	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	右文書院 新古典講読 説話・随筆・故事・小話・漢詩				
副教材等	なし				

2 学習目標

古典としての古文と漢文を読むことによって、我が国の文化と伝統に対する関心を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

3 学習方法

- ① 教科書を繰り返し音読する。
- ② プリントを用いて読解を深める。
- ③ 作品のものの見方や感じ方, 考え方を話し合う。

4 学習計画

学期	月	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	古文 古今著聞集「母子猿」	①何度も繰り返し音読し, 古文のリズムに慣れる。 ②1年で学習した歴史的仮名遣いの特徴を再確認する。	①音読することによって, 古文のリズムに慣れ, 正しく読むことができたか。 ②歴史的仮名遣いの読み方が習得できているか。 プリントの提出。
	5	沙石集「児の飴食ひたること」	①何度も繰り返し音読する。	①歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し, 正しく読むことができたか。
	6		②古語辞典を利用して, 本文に適した意味を捉える。 ③係り結びを理解する。 ④話のあらすじを捉え, おもしろさを味わう。	②古語辞典の引き方を習得できたか。 ③係り結びが理解できたか。 ④本文を読み味わうことができたか。 プリントの提出。
	7	十訓抄「文字一つの返し」	①何度も繰り返し音読する。 ②活用語は終止形に直し, 古語辞典を利用して, 本文に適した意味を捉える。 ③係り結びを理解する。 ④話のあらすじを捉え, おもしろさを味わう。	①歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し, 正しく読むことができたか。 ②活用語は終止形に直して, 的確に古語辞典を引くことができたか。 ③係り結びが習得できたか。 ④本文を読み味わうことができたか。 プリントの提出。
	9	徒然草「つれづれなるままに」	①出典について理解する。 ②暗唱するまで繰り返し音読する。 ③古語辞典を利用して, 正確な解釈をする。 ④『徒然草』執筆の動機や態度をまとめる。	①作品や作者について理解できたか。 ②暗唱できたか。 ③正確に解釈することができたか。 ④作品執筆の動機や態度が理解できたか。 プリントの提出。
	10	徒然草「これも仁和寺の法師」	①何度も繰り返し音読する。 ②古語辞典を利用して, 正確な解釈をする。 ③話のあらすじを捉え, おもしろさを味わう。	①正しく読むことができたか。 ②的確に古語辞典を引き, 正確に解釈することができたか。 ③本文を読み味わうことができたか。

学 期	2		しろさを味わう。	たか。 プリントの提出。
	11	枕草子「春はあけぼの」	①出典について理解する。 ②何度も繰り返し音読する。 ③古語辞典を利用して、正確な解釈をする。 ④有名な序段の内容を視覚的に理解する。	①作品や作者について理解できたか。 ②正しく読むことができたか。 ③的確に古語辞典を引き、正確に解釈することができたか。 ④序段の内容を絵に表現することができたか。 プリントの提出。
		枕草子「ありがたきもの」	①何度も繰り返し音読する。 ②古語辞典を利用して、正確な解釈をする。 ③枕草子の類聚的章段の特徴を理解する。	①正しく読むことができたか。 ②的確に古語辞典を引き、正確に解釈することができたか。 ③類聚的章段の特徴を理解することができたか。 プリントの提出。
		12	方丈記「ゆく河の流れ」	①出典について理解する。 ②何度も繰り返し音読する。 ③古語辞典を利用して、正確な解釈をする。 ④対句を理解する。
第 3 学 期	1	漢文 訓読の基本	①訓読の仕方を理解する。	①訓読の仕方を理解できたか。 プリント提出。
	2	「螢雪」 「守株」 「推敲」	①返り点に注意して、訓読する。 ②書き下し文に直す。	①訓読することができたか。 ②書き下し文に直すことができたか。
	3	「画竜点睛」 「朝三暮四」 「蛇足」	③解釈する。	③語句の意味を確認しながら解釈することができたか。 プリントの提出

5 學習評估

評価の観点及び内容について

以下に示す三つの観点に基づき、学習内容のまとめりごとに評価を行い、学年末に5段階の評価に総括します。

	評 価 の 観 点 及 び 内 容
1 関心・意欲・態度	古典を読む楽しさを味わい、古典に親しむとともに、我が国の伝統と文化に対する関心を深めようとしている。
2 読む能力	まとまりのある古典を読み、古典に表れた思想や感情を捉え、自分の考えを深め、発展させている。
3 知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴などの理解を深め、知識を身に付けている。

平成25年度 世界史Bの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	世界史B	単位数	4	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	高等学校 改訂版 世界史B（第一学習社）				
副教材等	歴史風景館 世界史のパビリオン（とうほう）				

2 学習目標

世界の歴史の大きな枠組みと流れを，我が国の歴史と関連づけながら理解させ，文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

3 学習方法

- ①教科書の写真や地図などを参考に基本事項の確認を行う。
 ②プリントを利用し，重要事項への関心を高める。
 ③具体例を増やし，興味関心を促す。
 ④教科書などの事象についての質問などに，身近な事から考えて答える。

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	序章 世界史への扉 1 生活の世界史 2 世界の「時間」と「空間」のとらえ方 3 世界史と日本史とのつながり （この中から2つ程度の主題を選択する）	・スポーツと茶，暦と地図，世界史と日本史とのつながりについて追究することを通して，世界史学習への意欲を高める。 ・身近なものや日常生活にかかわる事柄を通して世界史とのつながりを見いだし，日本史が世界史とかかわっていることに気付く。	・スポーツと茶，暦と地図，世界史と日本史とのつながりについて追究し考察した過程や結果をレポートにまとめ，発表をすることができたか。
		第1章 諸地域世界の形成 1 人類の出現と文明の誕生	・人類の起源について関心を高め，農耕・牧畜の始まり，文明の成立の過程を理解し，基本的知識を身に付ける。	・人類の誕生と進化の過程を把握できたか。
		2 西アジア・地中海世界	・オリエントと地中海世界の風土，オリエント世界の展開，ギリシア・ローマ文明，イラン民族の発展に関する資料を活用し，基本的知識を身に付ける。	・地図・資料を用いて，オリエント世界・地中海世界を比較できるか。 ・オリエント世界・地中海世界の特色を風土をふまえて理解できているか。
	5	3 南アジア世界の形成	・南アジア世界の風土，インダス文明，アーリア人の侵入以後の文化，社会，国家の発展に関する資料を活用し，基本的知識を身に付ける。	・都市文明を特徴とするインダス文明について把握できたか。 ・インドに侵入したアーリア人が定住して諸国家を形成したことを把握できたか。
	6	4 東アジア・内陸アジア世界の形成	・東アジア・内陸アジアの風土，新石器文化，殷・周から唐までの中国王朝の変遷と，日本を含めた東アジア世界の国際関係，中国王朝と遊牧国家との関係に関する資料を活用し基本的知識を身に付ける。	・東アジアに成立した中華文明と内陸アジア世界の形成，国家の成立，遊牧民との抗争，唐の支配体制及びその制度を取り入れた日本などの国家形成の過程を理解できたか。

第 2 学 期	7	第2章 諸地域世界の交流と再編	・イスラーム成立の背景と特質、イスラーム世界の形成と拡大の過程、歴史的意義について考察する。	・イスラーム教の成立とアラブ人の活動、イスラーム法に基づくイスラーム帝国の拡大について把握できたか。イスラーム教の内容については深入りをさせたい。
		1 イスラーム世界の形成と拡大		
		2 ヨーロッパ世界の形成と変動	・ヨーロッパの風土、ゲルマン人の移動、西ヨーロッパ世界の形成、西ヨーロッパ封建社会、カトリック教会と文化、ビザンツ帝国と東ヨーロッパ世界の形成、都市の発達と王権の伸長に関する資料を活用し、基本的知識を身に付ける。	・西ヨーロッパの形成、キリスト教と人びとの生活、国王の中央集権化による封建制の定着などについて把握できたか。キリスト教の内容については深入りをさせたい。 ノート提出
		3 内陸アジアの動向と諸地域世界	・契丹・女真・モンゴルを中心とした内陸アジアの動向がユーラシア諸地域の交流と再編に果たした役割について考察する。	・13世紀のモンゴルが広大な地域を支配する過程を知ることができたか。また、日本が元寇の危機を乗り越えたことを把握できたか。
	9	第3章 諸地域世界の一体化	・16世紀～18世紀にかけてのアジア諸地域世界の社会や文化の特質について考察する。	・16～18世紀の中国と東アジアの情勢を把握できたか。
		1 アジア諸帝国の繁栄と成熟	・ルネサンス、大航海時代、アメリカ大陸の古文明とその後の変貌、宗教改革の動向に関する資料を活用し、基本的知識を身に付ける。	・新しいヨーロッパ文化としてのルネサンスを知ることができたか。アジア・中南米に物産を求めてヨーロッパ各国が進出したことを理解できたか。宗教改革については触れる程度とする。国王による絶対主義と重商主義による植民地化を理解できたか。
		2 ヨーロッパの拡大と大西洋世界	・主権国家体制の特色、ヨーロッパ国際関係と商業覇権の推移、大西洋三角貿易の歴史的意義について考察する。	
	10	3 ヨーロッパ主権国家体制の成立	・アメリカ独立革命、フランス革命、ラテンアメリカ諸国の独立が相互に関連をもちながら起こったことを理解する。	・イギリスから始まる産業革命と、ヨーロッパ及びアメリカの革命による国民国家形成という社会変革について理解できたか。
		第4章 諸地域世界の変容	・産業革命がもたらした社会の変容について考察する。	
		1 アメリカとフランスの革命	・ウィーン体制下の各地で自由主義・ナショナリズムの運動が高まり、イタリアやドイツなどで国民国家が形成されたことを理解する。	・ヨーロッパ各国によるアジア地域の植民地化、特に中国に対する利権争いの激化について把握できたか。
	11	2 産業革命	・先住民に対する抑圧、黒人奴隷制度や奴隷解放後の人種分離などが、現在まで続く人種差別の一因となったことを理解する。	
		3 19世紀のヨーロッパ	・日本の明治維新とその後の近代化の動きがアジア諸国に与えた影響について考察する。	・日本で江戸幕府が倒れ、明治維新が起こったこと、日本の朝鮮進出を理解できたか。
		4 アメリカ合衆国の膨張	・ヨーロッパ諸国によるアジア・アフリカの植民地化をめぐる競合とアジア・アフリカの対応の歴史的意義を考察する。	・ヨーロッパ各国の帝国主義をまねた日本の帝国主義の進展を把握できたか。
	12	5 世界市場の形成とアジア諸国		
		6 帝国主義と世界の変容		

第 3 学 期	第5章 地球世界の形成	・第一次世界大戦後の世界の変化について、第二次世界大戦へとつながった問題点を含め、多角的に考察する。	
	1 第一次世界大戦と民族主義の展開		
	2 ファシズムの台頭第二次世界大戦	・ファシズムの特徴について理解する。	・未曾有の戦禍を引き起こした2度の大戦が、どのような社会情勢の中でおきたのかを理解できたか。
	3 米ソ冷戦と第三勢力	・冷戦の背景について、第二次世界大戦中の国際関係も復習しながら多角的に考察する。	・大戦後の米ソ冷戦及び世界の政治情勢と植民地の独立について把握できたか。平和の大切さを理解できたか。
	4 冷戦の終結と地球社会の到来	・東欧諸国の民主化とソ連の社会主義体制の崩壊について、その歴史的意味を多角的に考察する。	
	5 国際対立と国際協調	・現代の国際問題、国際協調の意義と課題について歴史的観点から理解し、その知識を身に付ける。	・現代の国際問題、科学技術の発達と現代文明に関する資料を収集・選択・活用するとともに、追究し考察した過程や結果をレポートにまとめ、発表することができたか。
	6 科学技術の発達と現代文明	・情報化、先端技術の発達、環境問題などについて関心を高める。	
	7 これからの世界と日本	・これからの世界と日本の課題について関心を高める。	

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す4つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。なお、学習計画に示された「評価のポイント」は4つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしたか。
2 思考・判断	世界の歴史から課題を見いだし、文化の多様性と現代世界の特質を世界的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに国際社会の変化を踏まえ公正に判断できたか。
3 資料活用の技能と表現	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事実を追求する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現できたか。
4 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連つけながら理解し、身に付けられたか。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	◎	◎	◎	学習活動への参加の態度
提出物	◎	◎	◎	◎	プリントなど
ノート	◎	○	○	○	年間5回提出
定期考査	○	◎	◎	◎	年間5回実施

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です)

平成 25 年度 数学Aのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	数学A	単位数	3	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	東京書籍 新数学A				
副教材等	未定				

2 学習目標

場合の数と確率, 整数の性質又は図形の性質について学習します。基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を養いましょう。数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用していくとよいでしょう。

3 学習方法

大切にしたいのは授業です。授業をしっかり聞いてノートを取り、授業中の演習の中で理解を深めて欲しいと思います。また、問題集などでの復習を通して、理解した内容を定着させましょう。ぜひ、苦勞して解けたときの喜びを味わってください。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	1章 場合の数と確率 1節 場合の数 1 集合 2 集合の要素の個数 3 和の法則と積の法則 4 順列 5 順列の利用 6 重複順列 7 円順列 8 組合せ 9 組合せの利用	- 部分集合 - 共通部分と和集合 - 空集合と全体集合 - 集合の要素の個数 - 和の法則・積の法則 - 順列 - 重複順列 - 円順列 - 組合せ	部分集合, 全体集合, 補集合, 共通部分, 和集合などの集合の表し方, 用語, 記号を, 図を用いて理解し, 記号を使って表すことができる。集合の要素の個数を求めることができる。 和の法則や積の法則について, 具体例を用いて理解し, 場合の数を効率よく求めることができる。 順列の意味を理解し, 公式を用いて基本的な順列の総数を求めることができる。 条件のついた順列の総数を求めることができる。 重複順列・円順列の意味を理解し, 総数を求めることができる。 組合せの意味や性質を理解し, 公式を用いて基本的な組合せの総数を求めることができる。組合せの考え方をいろいろな場面に利用して, 組合せの総数を求めることができる。
第2学期	2節 確率 1 確率の意味 2 確率の計算 3 独立な試行の確率 4 反復試行の確率 5 条件つき確率 2章図形の性質 1節三角形の性質 1 三角形と比 2 三角形の重心・外心・内心 3 角の二等分線と線分の比 2節 円の性質 1 円周角の定理 2 円に内接する四角形	- 試行と事象 - 確率の計算 - 独立な試行 - 反復試行 - 排反事象の確率 - 余事象の確率 - 比の定理 - 中点連結定理 - 重心・外心・内心 - 円周角の定理 - 円の接線 - 方べきの定理	試行と事象, 事象の確率について学び, 確率の意味を知り, 基本的な確率を求めることができる。 場合の数をもとに, 確率を求めることができる。また, 確率の加法定理を理解し, 排反事象に分けて確率を求めることができる。余事象を利用して求めることができる。 独立な試行の確率が積の法則により求められことを理解し, 簡単な独立な試行の確率を求めることができる。 反復試行について理解し, 簡単な場合の反復試行の確率を求めることができる。 条件つき確率の意味を理解する。 三角形と比の定理と中点連結定理を理解し, それらを利用して, 線分の長さを求めることができる。 三角形の中線, 辺の垂直二等分線, 角の二等分線の性質を考察し, 三角形の重心, 外心, 内心の性質を利用して, 線分の長さや角の大きさを求めることができる。 三角形の角の二等分線と線分の比の定理を理解しそれを用いることができる。 円周角の定理を理解し, それを利用して角の大きさを求めることができる。また, 円周角の定理の逆を利用して, 4点

	3 円と直線 4 接線と弦のつくる角 5 方べきの定理 6 2つの円	・2つの円	が同一円周上にあるかどうかを判断できる。 円に内接する四角形の定理を理解し、それを利用して角の大きさを求めることができる。 円の接線の性質、接線の長さについて理解し、それらを利用して、接線の長さや三角形の辺の長さを求めることができる。 接線と弦のつくる角の定理を理解し、それを利用して、角の大きさを求めることができる。 円と2本の直線がつくる線分の長さの関係を考察し、方べきの定理が成り立つことを理解し、図形に対する能力をさらに伸ばす。 2つの円の位置関係と、2つの円に共通する接線の数について考察する。
第3学期	3節 作図 1 基本の作図 2 いろいろな作図 3章 整数の性質 1節 約数と倍数 1 約数と倍数 2 最大公約数と最小公倍数	・垂直二等分線 ・垂線 ・角の二等分線 ・約数・倍数・素数 ・素因数分解 ・最大公約数・最小公倍数	垂直二等分線、垂線、角の二等分線の作図方法を理解し、その作図ができる。 約数、倍数、素数、素因数分解などの整数に関する基本的概念について理解し、約数、倍数を求めたり、素因数分解したりすることができる。 最大公約数、最小公倍数の求め方を理解し、これを 利用して、問題を解決することができる。また、最大公約数と最小公倍数の関係を理解する。

5 学習評価

評価については、次の4つの観点を検討します。 ・関心・意欲・態度～授業中の態度、問題集やノート等提出物で評価します。 ・数学的な見方や考え方～授業中の質問や問題演習における板書等で評価します。 ・数学的な技能～定期考査・小テスト・プリント問題集等の結果で評価します。 ・知識・理解～授業中の態度・定期考査・小テスト・プリント問題集等の内容で評価します。 授業を大切にし、その場その場で理解して次の学習につなげられるようにしましょう。

平成 25 年度 数学 I（選択）のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	数学 I	単位数	2	履修学年・区分	第 2 学年 Bコース（選択）
使用する教科書	東京書籍 新数学 I				
副教材等	未定				

2 学習目標

数学とは、決まったルールに則って発展し世界が広がる学問です。まず皆さんにはルールを覚えてもらうこと、それに基づいて計算していくことが必要になります。 具体的には、展開や因数分解の仕方、方程式と不等式を解き方、2 次関数のグラフのかき方、三角比を利用して辺の長さ、角の大きさ、面積の求め方などを身につけることです。
--

3 学習方法

大切にしたいのは授業です。授業をしっかり聞いてノートを取り、授業中の演習の中で理解を深めて欲しいと思います。また、問題集などでの復習を通して、理解した内容を定着させましょう。 1 年次の学習で不足している部分を学習していくとともに、全体を復習していきます。
--

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学期	1 章 数と式 1 節 整式 1 文字を使った式 2 整式 3 整式の加法・減法 4 整式の乗法 5 乗法公式 6 因数分解 2 節 実数 1 数の分類 2 根号を含む式の計算 3 節 方程式と不等式 1 1 次方程式 2 不等式 3 不等式の性質 4 不等式の解き方 5 不等式の利用 6 2 次方程式とその解き方 2 章 2 次関数 1 節 2 次関数とそのグラフ 1 関数 2 2 次関数とそのグラフ 2 節 2 次関数の値の変化 1 2 次関数の最大値・最小値 2 2 次関数のグラフと 2 次方程式 3 2 次関数のグラフと 2 次不等式	・ 文字式 ・ 整式の加法, 減法 ・ 指数法則 ・ 乗法公式 ・ 因数分解の公式 ・ 自然数, 整数, 分数, 有理数, 無理数 ・ 平方根の計算 ・ 分母の有理化 ・ 1 次方程式 ・ 1 次不等式 ・ 連立 1 次不等式 ・ 因数分解による 2 次方程式の解法 ・ 平方根による 2 次方程式の解法 ・ 解の公式による 2 次方程式の解法 ・ 1 次関数 ・ 2 次関数 ・ 2 次関数の頂点 ・ 平方完成 ・ 2 次関数の最大値, 最小値 ・ 2 次関数のグラフ ・ 2 次方程式 ・ 2 次不等式	問題集・プリント演習・小テストを行い、1 年で学んだ数学 I の内容を理解できる。
第 2 学期	3 章 三角比 1 三角形 2 タンジェント 3 サインとコサイン 4 三角比の利用 5 三角比の相互関係 2 節 三角比の応用 1 三角形の面積 2 正弦定理 3 余弦定理 4 三角比と座標 5 三角比の相互関係 6 鈍角の三角比と計量	・ 直角三角形 ・ 三平方の定理 ・ 三角比の定義 ・ 三角比の相互関係 ・ 三角形の面積 ・ 正弦定理 ・ 余弦定理 ・ 鈍角の三角比	問題集・プリント演習・小テストを行い、1 年で学んだ数学 I の内容を理解できる。

第 3 学 期	4章 集合と論証 1節 集合と論証 1 集合 2 命題と集合 3 命題と証明 1節データの分析 1 データと度数分布表 2 代表値 3 散らばりぐあいを表す値 4 分散と標準偏差 5 相関関係 6 相関係数	・集合と要素 ・共通部分 ・和集合 ・命題 ・命題と条件 ・逆, 裏, 対偶 ・データの分析 ・中央値, 最頻値 ・分散 ・標準偏差 ・相関関係 ・相関係数	問題集・プリント演習・小テストを行い、1年で学んだ数学Ⅰの内容を理解できる。
------------------	--	---	--

5 学習評価

評価については、次の4つの観点を検討します。 ・関心・意欲・態度～授業中の態度，問題集やノート等提出物で評価します。 ・数学的な見方や考え方～授業中の質問や問題演習における板書等で評価します。 ・数学的な技能～定期考査・小テスト・プリント問題集等の結果で評価します。 ・知識・理解～授業中の態度・定期考査・小テスト・プリント問題集等の内容で評価します。 授業を大切にし、その場その場で理解して次の学習につなげられるようにしましょう。

平成 25 年度 生物基礎の学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	生物基礎	単位数	2	履修学年・区分	第 1・2 学年
使用する教科書	高校生物基礎（実教出版）				
副教材等	アクセスノート生物基礎（実教出版）				

2 学習目標

すべての生物は，細胞と呼ばれるものから作られています。生物基礎の授業では，まずは細胞の特徴や働きを学び，そこから生物の設計図である遺伝子に思いを馳せます。さらには生物の内的環境と外的環境にも目を向け，生物が日常的に行っている様々な反応について広く学習します。

生物基礎では生物や生物現象についての観察，実験を行い，自然に対する関心や探究心を深め，生物に対する総合的な見方や考え方を養うことを目標とします。

3 学習方法

- ① 生物に関する内容を扱ったテレビ番組や新聞記事が身近にたくさんあります。積極的に触れてみましょう。
- ② ノートには，板書を写すだけでなく，口頭での説明もきちんと記入しましょう。復習時にまとめれば，あなただけの参考書になります。
- ③ 授業を受けていて解らないことなどがあった場合には，そのままにせず遠慮なく質問しましょう。
- ④ 実験・観察は重要です。目的や方法をきちんと理解し，実験に臨みましょう。また，レポートには「結果」の他に「考察」を必ず書きましょう。

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学期	1 章 生物の特徴 1 節 生物の共通性と多様性	1 いろいろな生物 2 生物の共通性の由来 3 細胞の特徴	・生物の共通性に触れ，細胞の構造や働きについて理解する。 ・原核生物といった細胞の違いによる生物の分類を理解する。
	2 節 細胞とエネルギー	1 代謝とエネルギー 2 酵素 3 呼吸 4 光合成 5 ミトコンドリアと葉緑体の起源	・代謝には同化と異化があることを理解する。 ・酵素の働きと性質を理解する。 ・代謝の代表的な反応である呼吸と光合成についてそのしくみを理解する。 ・細胞小器官の起源を通して，細胞内共生説を理解する。

	2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝情報とDNA 2節 遺伝情報の分配	1 ゲノムと遺伝子 2 DNA研究の歴史 3 DNAの構造 1 細胞分裂とDNA	・DNAが遺伝子の本体であることを証明した実験について学ぶ。 ・DNAの二重らせん構造について視覚的にも理解する。 ・体細胞分裂とDNAとの量的関係を理解する。
第2学期	3節 遺伝情報とタンパク質の合成 3章 生物の体内環境とその維持 1節 体内環境 2節 体内環境の維持のしくみ 3節 免疫	1 遺伝子とタンパク質 2 タンパク質の合成 3 遺伝子の発現 1 体液と体内環境 2 恒常性にかかわるしくみ 1 自律神経系による調節 2 ホルモンによる調節 3 自律神経系とホルモンによる調節 1 生体防御 2 免疫のしくみ	・タンパク質が生体に多く含まれ、重要な役割を担っていることを理解する。 ・タンパク質の合成過程を、DNAと関連づけて理解する。 ・恒常性を知り、体液の循環について理解する。 ・恒常性に関して腎臓や肝臓の果たしている役割を理解する。 ・自律神経系の働きを理解する。 ・種々のホルモンとそれぞれの働き、およびその働きの結果である血糖量調節や体温調節のしくみを詳しく理解する。 ・生体防御法である免疫の種類とそれぞれのしくみについて深く理解する。 ・アレルギーや免疫不全があることを把握する。
第3学期	4章 生物の多様性と生態系 1節 植生と遷移	1 植物の生活と環境 2 植生とその構造 3 遷移と極相	・植物と光や水との関係を、光合成や蒸散といった観点から理解する。 ・森林の構造や植物の種類を通して植生を理解する。 ・長い時間をかけての植生の移り変わりを、周囲の環境の変化と併せて理解する。

2 節 気候とバイオーム	1 バイオームの分布	・気温・降水量とバイオームとを関連づけて理解する。
3 節 生態系と物質循環	1 生態系 2 エネルギーの流れと物質循環 3 生態系のバランス	・様々な生態系とそのバランスについて、物質循環やエネルギーの流れを通して理解する。
4 節 生態系のバランスと保全	1 人間生活と生態系 2 生態系の保全	人間生活が生態系に与える悪影響と、それへの対応策を深く学ぶ。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に 5 段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 「関心・意欲・態度」	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象に関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、生物の共通性と多様性を意識するなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。
2 「思考・判断・表現」	生物や生物現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出された考えを的確に表現している。
3 「観察・実験の技能」	生物や生物現象に関する観察・実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
4 「知識・理解」	生物や生物現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法 観点	観点 1	観点 2	観点 3	観点 4	備考
学習状況の観察	◎	◎	◎	○	授業中の態度。
提出物	○	○	◎	◎	実験レポートや問題集。
ノート	◎	○	○	○	年 5 回提出。再提出あり。
定期考査	○	◎	○	◎	年 5 回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成25年度 地学基礎 のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	地学基礎	単位数	1	履修学年・区分	2 学年
使用する教科書	地学基礎 (東京書籍)				
副教材等	ニューサポート 地学基礎				

2 学習目標

私たちの住む地球は太陽系に属する惑星です。そしてその地球は今のところ生命の宿る唯一の星です。その事実を踏まえたとき, 自分の住む場所について深く知っておくことは決して無駄なことではないことが分かります。

地学基礎では, 地球と太陽系のその他の惑星との比較や, 地球の成り立ちおよび地球の地層や地質について学び, 地学分野に関する観察, 実験などを通して, 地球に対する総合的な見方や考え方を養うことを目標とします。

3 学習方法

- ① TV番組や新聞記事にも地学の内容を扱ったものは数多く見られます。興味ある分野は自分から積極的に触れていきましょう。
- ② ノートはただ板書を写すだけでなく, 自分に分かりやすいようにまとめましょう。
- ③ 授業の復習を問題集やプリントを使用して適宜行い, 知識の定着を図りましょう。
- ④ 実験・観察はその目的や方法をきちんと理解した上で臨みましょう。また, 実験結果から考察を導くことも忘れないように。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	3. 私たちの地球 1章 大地とその動き	1 地球の形と大きさ 2 地球の構造 3 地球内部の動き 4 プレーートの境界	・地球の形や大きさの求め方を学ぶ。 ・地球の内部が層構造をなしていることを理解する。 ・プレートとその境界の様々な動きについて理解する。
	2章 地震	1 地震のメカニズム 2 海溝の地震 3 活断層 4 地震による災害と防災	・地震のメカニズムや地震による災害やその影響について学ぶ。
第2	3章 火山	1 火山ができる場所 2 火山活動の特性	・火山のできる場所や火山の特性, 火成岩の分類について

学 期	4 章 大気と海洋	3 火成岩の観察 4 火山の恵みと災害 1 地球の大気 2 地球の熱収支 3 大気の大循環 4 海水とその運動 5 日本の海の恵みと災害	理解する。 ・火山の恵みと災害について深く学ぶ。 ・大気の組成や大気圏の構造について理解する。 ・地球の熱収支や大気の大循環について理解する。 ・海水の特性について学ぶ。 ・日本の海の恵みと災害について深く理解する。
	4. 私たちの地球のこれから 1 章 地球環境の考え方	1 地球システム 2 時間・空間スケール 3 フィードバックのしくみ	・フィードバックや相互作用といった地球システムについて理解する。
第 3 学 期	2 章 自然環境の変動	1 自然環境の変化 2 人間活動がもたらす自然環境の変化	・自然環境の変化について把握する。 ・人間活動による様々な環境問題について理解を深める。
	3 章 日本の自然環境	1 日本の自然がもたらす恩恵 2 日本における自然災害 3 災害と人間	・日本の自然がもたらす恩恵や災害について学ぶ。
	4 章 これからの地球環境	1 世界の取り組み 2 代替エネルギー 3 持続可能な発展へ	・環境問題に対する世界規模での取り組みを理解する。

5 学習評価

(1) 評価の観点および内容について

以下に示す4つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。なお、学習計画に示された「評価のポイント」は4つの観点と結びついた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 お よ び 内 容	
1 「関心・意欲・態度」	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心をもち、意欲的に探究しようとするとともに、地学的な事物・現象を一連の時間の流れの中でとらえるなど、科学的な見方や考え方を身

	に付けている。
2「思考・判断・表現」	地球や地球を取り巻く環境に関する事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
3「観察・実験の技能」	地球や地球を取り巻く環境に関する観察・実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録・整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。
4「知識・理解」	地球や地球を取り巻く環境について、原理・法則を理解し、知識を身に付けている。

(2)「評価の観点」の評価方法について

評価方法 観点	観点 1	観点 2	観点 3	観点 4	備 考
学習状況の観察	◎	○	◎	○	授業中の態度。
提出物	○	○	◎	○	プリントや問題集。
ノート	◎	○	○	○	年 5 回提出。再提出あり。
定期考査	○	◎	○	◎	年 5 回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成25年度 体育の学習のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	体育	単位数	3	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	なし				
副教材等	なし				

2 学習目標

現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、生涯にわたり自らが運動を実践できる能力を身に付ける。また、正しい服装で安全に配慮し、時間・ルールを守り授業に取り組むことや各領域・各種目の特性を学び、協力・責任を果たし、運動を楽しむことができることを目標とする。
--

3 学習方法

様々な運動を通して、体を動かすことの楽しさを味わうとともに、周囲と協力しながら技能・体力を向上させる。また、自分の体の特徴を知り、どこが強いのか、どこが弱いのかまず把握し、自分に合ったトレーニングを組んで実践することができるようにする。体育理論から科学的に学び、体力向上や健康について意識し、実践する能力を養う。
--

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	集団行動 体力づくり運動 体育理論 (選択①) バレーボール, ソフトボール テニス, ダンス 水泳	①姿勢②方向変換③集合、整とん、番号、解散④列の増減⑤開列⑥行進⑦礼 ・ 体ほぐしの運動 ・ 体力を高める運動 ・ 体育理論 ・ 基本技術の習得 ①クロール②平泳ぎ③背泳ぎ④バタフライ⑤横泳ぎ	・ 基本動作 (姿勢・方向転換・集合・整頓・番号・列の増減) ができたか。 ・ 持久性、スピード、筋力の向上を目指し取り組むことができたか。 ・ 自己の目標を設定し、目標に取り組んだり、チーム内で協力したりできたか。 ・ より長く、より速く泳げるように、自分の能力に応じて取り組むことができたか。
第2学期	体力づくり運動 体育理論 (選択②) 柔道 (選択③) バレーボール, ソフトボール テニス, 卓球 (選択④) 陸上, 器械運動, ダンス	・ 体力を高める運動 (2km, 4km) ・ 体育理論 ・ 柔道 (受身・寝技・立ち技) ・ 基本技術の習得 ・ ゲーム ・ 基本技術の習得 ・ ゲーム	・ 礼儀作法・技の習得ができたか。 ・ 自己の目標タイムを設定し、目標に取り組んだり、チーム内で協力したりできたか。 ・ サーブ、パス、レシーブ、スパイクができたか。 ・ キャッチボール、バッティングができたか。 ・ サーブ、スマッシュ、ボレーができたか。 ・ シングルス及びダブルスのゲームができたか。 ・ パス、キャッチ、トリプル、シュートができたか。 ・ キャッチボール、バッティング、パスができたか。 ・ 楽しく踊ったり、発表したりできたか。
第3学期	(選択⑤) バスケット, サッカー バドミントン, ダンス (選択⑥) バスケット, サッカー バドミントン, ダンス	・ 基本技術の習得 ・ ゲーム ・ 基本技術の習得 ・ ゲーム	・ シングルス及びダブルスのゲームができたか。 ・ サーブ、スマッシュ、ボレーができたか。 ・ パス、キャッチ、トリプル、シュートができたか。 ・ サーブ、パス、レシーブ、スパイクができたか。

5 学習評価

評価は、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」の4つの観点に基づいて行います。評価をする際には、次の①～⑤が重要となります。 ①「体育」の授業に積極的に参加し、向上心がみられるか。 ②協調性を持って、周囲と楽しく取り組もうとしているか。 ③技能や安全面など、適切な状況判断ができるか。④与えられた課題に対して、しっかりと技能を習得することができるか、また習得しようと努力しているか。⑤技能・ルール・安全・理論に対する知識理解を深めているか。 ※授業への取り組み+記録+目標設定への達成度
--

平成25年度 保健のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	保健	単位数	1	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	最新保健体育 (大修館書店出版)				
副教材等	最新保健ノート (大修館書店出版)				

2 学習目標

人は生涯の各段階で、さまざまな健康問題に出会います。まず、思春期である今の心や体を理解し、適切に行動できるようにすることが目標です。また、中高年期においていずれ出会うであろう健康課題や、それぞれの段階で必要となる保健・医療機関の活用・自然環境や社会の制度・食品の問題・労働と健康について学び、生涯を通じた健康を理解することを第二の目標とします。

3 学習方法

社会の大きな変化の中で、健康や安全の問題は多様化しています。①新聞や雑誌、テレビ番組やニュースで、保健(健康問題も含む)の内容を扱ったものは意識的に見るように心がけましょう。②健康問題とその対策について学びます。③実習を通して実際の生活の中で使うことがあるかも知れないことをしっかり身に付けましょう。

4 学習計画

学期	学習内容(単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	生涯を通じる健康 1 思春期と健康 2 性への関心・欲求と性行動の選択 3 妊娠・出産と健康 4 避妊法の選択と人工妊娠中絶 5 結婚生活と健康	- 女性の生殖器 - 男性の生殖器 - 男女の違い - 受精, 妊娠, 出産 - コンドームとピル - 結婚	- 女性の月経・排卵や男性の射精などの性機能を理解することができたか。 - 性意識に関する男女差を理解できたか。 - 受精・妊娠・出産の過程を説明できたか。 - マタニティブルーを理解できたか。 - 家族計画の意義や方法を理解できたか。 - 健康な結婚生活を考えることができたか。
第2学期	6 加齢と健康 7 保健サービスとその活用 8 医療サービスとその活用 9 健康で安全な社会づくり 社会生活と健康 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁, 土壌汚染と健康 3 環境汚染を防ぐ取り組み	- 老化, 骨粗しょう症 - 保健所と保健センター - 医療保険のしくみ - インフォームド・コンセント - カット・オフ・エフェクト - バリアフリー - エバー・サステナブル - 公害病	- 加齢による変化を理解することができたか。 - 保健所や保健センターを活用することができたか。 - 医療保険のしくみを理解できたか。 - 医師に対し受け身でなく積極的に情報を得て判断する努力が必要なことを理解できたか。 - 汚染源や健康被害を及ぼす条件を説明できたか。 - 環境問題を積極的に調べて、自分にできることを実践しようとしたか。
第3学期	4 ごみの処理と上下水道の整備 5 食品の安全を守る活動 6 働くことと健康 7 働く人の健康づくり	- 循環型社会 - 食中毒予防 - 労働災害 - メンタルヘルスケア	- 日常生活の中で実践できているか。 - 職業病や労働災害を防ぐために、雇用者及び働く人自身がどのような取り組みが必要なのかを理解できたか。

5 学習評価

評価は、「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」の3つの観点に基づいて行います。
学習活動の中で、グループでの調べ学習や発表、ロールプレイング実習などを取り入れていきます。それらの活動への取り組み方や実際に活用できるかが重要です。そのことが理解されているかを確認するための定期考査(学期1回ずつ)も成績評価をする際の重要な資料となります。

※テストの得点+授業への取り組み姿勢+技能習得+提出物

平成24年度 音楽Ⅱの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	音楽Ⅱ	単位数	2	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	改訂新版 高校生の音楽2				

2 学習目標

◎ 音楽の諸活動を通して，生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，創造的な表現と主体的な鑑賞の能力を伸ばし，音楽文化についての理解を深める。〔要するに，音楽的な能力（楽器の演奏とか歌を歌うこととか音楽を聴くこととか）を高め，音楽好きな生徒を育てましょう！ということです。〕

3 学習方法

① 高校での学習の基本は授業です。先生の話をよく聞く，積極的に音楽に取り組む，課題をきちんと提出する，これらのことを着実にこなせば，どんどん音楽の力はつきます。 中学時代に音楽の授業が苦手，もしくは嫌いだった人もいます。歌が苦手，笛が苦手，音符読めないから嫌い・・・安心してください。本校の芸術の授業は音楽のみですので，様々な種類の音楽を行います。歌，リコーダー，鑑賞，楽典（音楽のルール）全てを初歩から行いますので，実技系が苦手な人は筆記系（楽典，鑑賞）を頑張れば大丈夫です。 初めからあきらめずに意欲的に取り組みましょう。 ② 演奏（歌唱）するにも鑑賞するにも「楽譜が読める」ことは重要な手がかりになります。楽譜を読めるように授業は進みますので，がんばりましょう。もちろん初歩の初歩から始めます。 ③ アルトリコーダーを使用しますので，必ず用意してください。 ④ 必要に応じて，実技テストと筆記テストを行います。実技テストは授業の中で，筆記テストは定期考査期間中に行います。実技テストが苦手な人は筆記テストを頑張る，筆記テストが苦手な人は実技テストを頑張る，両方苦手な人は，両方頑張るというようにすれば大丈夫です。

4 学習計画

学期	学習内容（单元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	歌唱 器楽（リコーダー）	日本の歌「Best Friend」 「島唄」 ドイツの歌「帰れソレントへ」 1学年時に学習した基礎の上に，より難易度の高い楽曲を演奏したり，アンサンブルに挑戦したりします。	・楽譜を読み，理解して，それぞれの楽曲の情景を思い浮かべながら表現（歌唱）できたか。 ・楽譜を読み，理解し，楽曲を演奏できたか。 ・自分の役割を認識し，友人たちと表現を「合わせる」ことを楽しみ，主体的にアンサンブルできたか。
第2学期	器楽（ギター） 鑑賞	アポヤンド奏法，アル・アイレ奏法を覚え，簡単な曲を演奏します。 オペラ 「ラ・ボエーム」	・ギターの基本的な奏法を覚えたか。 ・タブ譜が読めるようになったか。 ・オペラについて理解を深め，鑑賞の結果，その音楽的印象を文章で表現し，共有できたか。

第 3 学 期	器楽・鑑賞（箏）	日本の伝統音楽を鑑賞し、実際に箏の演習をします。	・日本の伝統音楽について理解を深め、鑑賞の結果、その音楽的印象を文章で表現し、共有できたか。 ・箏の基本的な奏法を覚えたか。
	器楽（合奏）	・ギターやリコーダーを使い、グループで合奏します。	・自分の役割を認識し、友人たちと表現を「合わせる」ことを楽しみ、主体的にアンサンブルできたか。

5 学習評価

評価は、「関心・意欲・態度」「芸術的な感受や創造的な表現の技能」「鑑賞の能力」「表現の工夫」の4つの観点に基づいて行います。

音楽の成績を評価するときに、最も重視されるのは日々の授業に取り組む姿勢です。

音楽は体育同様「実技教科」です。日々の授業で身に付けた力を試すためにテストをします。（笛の練習を普段の授業で一生懸命やらなかったら、笛のテストで良い結果は残らないですね）

例えば、普段の授業で一生懸命苦手な笛の練習をしているけど、やっぱり笛は昔から苦手で、テストでは上手にできなかった、という人は、ちゃんと日々の努力を評価します。笛は得意だから普段の授業は怠けていてもテストでは上手にできる、という人も、ちゃんと日々の努力を評価して、成績は悪くつきません。筆記関係も同じです。

もちろん、私語をしていたり、出歩いたり等の授業のルールを守れない人は、話になりません。評価の対象外になります。

平成25年度 英語Ⅱの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	英語Ⅱ	単位数	4	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	VISTA English Series Ⅱ New Edition（三省堂）				

2 学習目標

- ◎1年生のときと同様に，下の4点を目標に学習します。
- ・「ボキャブラリー」を増やそう。
 - ・基本的な英文法をしっかりと身につけよう。
 - ・簡単な英語を使って，コミュニケーションに挑戦しよう。
 - ・外国の文化に興味や関心を持とう。

3 学習方法

◎英語学習にマジックはありません。「地道にコツコツ，すべきことを続ける」，これこそ最高の学習方法です。では，「すべきこと」とはなんでしょう？答えは，下記のとおりです。

① 高校での学習の基本は授業です。先生の話をよく聞く。大事なところを確実にノートに書きとる。辞書をたくさん使う。宿題をしっかりとやる。課題をきちんと提出する。これらのことを着実にこなせば，どんどん英語の力はつきます。

② 次の授業に備えての予習や，その日学習したことの復習は，英語学習に不可欠です。毎日机に向かい，教科書を開く。その習慣を身につけましょう。

③ 定期考査の準備は，時間をかけて精一杯やりましょう。テスト対策は，学習したことを確実に身につけるための最高の機会です。しっかり準備すれば高得点が取れます。高得点は自信を生みます。「準備→高得点→自信」，このサイクルを手に入れましょう。

4 学習計画

学期	学習内容（单元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	1年生の復習	1年生で学習した，基礎的なボキャブラリーと文法を再確認する。	・基本的な単語や熟語は身につけているか。 ・主に動詞の用法に関して，基礎的な文法事項は身につけているか。
	L1 Whistle Communication コミュニケーションの多様性について考えよう。	比較級と接続詞の用法について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・比較級を用いて表現活動を行うことができるか。 ・基本的な接続詞とその用法について理解できたか。 ・新出言語材料は身についたか。
	Step-up English	1. 代名詞 2. be動詞の用法 3. 一般動詞の用法	・代名詞を意味の違いに応じて活用できるか。 ・主語や時制に対応して，be動詞の使い分けができるか。また，疑問文及び否定文への書き換えはできるか。 ・主語や時制に対応して動詞を活用できるか。また，疑問文及び否定文への書き換えはできるか。

第 2 学 期	L2 Cathy Freeman 民族や文化の多様性について考えよう。	・原形不定詞の基礎的な用法について理解する。 ・関係代名詞whatの用法について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・原形不定詞を用いた表現をすることができるか。また関係代名詞whatのはたらきについて理解できたか。 ・新出言語材料は身についたか。
	L3 The Evil Eye さまざまな文化の共通性について考えよう。	不定詞の発展的な用法について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・「動詞＋人＋不定詞」を用いた表現をすることができるか。「原因・理由」を表す不定詞の用法を理解できたか。 ・新出言語材料は身についたか。
	L4 India インドについての英文を読むことを通して、異文化認識を深めよう。	・部分否定の用法について理解する。 ・疑問詞を用いた譲歩の考え方について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・部分否定の考え方を理解できたか。また、疑問詞を用いた譲歩の表現をすることができるか。 ・新出言語材料は身についたか。
	Step-up English	4. 疑問詞 5. 進行形 6. 助動詞	・疑問詞の意味とつづりを確実に覚えることができたか。 ・現在進行形と過去進行形を用いた表現ができるか。また、疑問文及び否定文への書き換えはできるか。 ・いろいろな助動詞の意味とつづりを確実に覚えることができたか。また、疑問文及び否定文への書き換えはできるか。
第 3 学 期	L5 Guernica:A Symbol of Peace ピカソの「ゲルニカ」について知ることを通して、平和の大切さを学ぼう。	助動詞の発展的な用法と挿入節の使い方について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・「助動詞＋完了形」を用いた表現をすることができるか。また、疑問詞を使った文に節を挿入する考え方が理解できたか。 ・新出言語材料は身についたか。
	Step-up English	7. 不定詞 8. 現在完了形 9. 比較	・不定詞の意味と用法を確実に理解することができたか。 ・現在完了形の意味と用法を確実に理解することができたか。 ・意味の違いに応じて、適切に比較変化をさせることができるか。

5 学習評価

評価の仕方は1年生のときとまったく同様に、「関心・意欲・態度」「表現の能力」「理解の能力」「知識・理解」の4つの観点に基づいて行います。

評価をする際に最も重視されるのは、2年生でも定期考査の結果です。年に5回実施される定期考査で何点を取ることができたのか。まず、それが大切です。

また、君たちの毎日の学習態度にも注目し、考査の点数と総合して上記の4つの観点に基づき評価を行います。学習態度については、具体的に以下の項目が成績評価の重要な資料になります。

★授業に取り組む姿勢

きちんとした態度で話を聞いているか、ノートをしっかり取っているか、活動には積極的に取り組んでいるかなど。

★提出物

きちんと仕上げて、期日までに提出できているか。

◎要するに、「テストの得点＋普段の努力」が大切ということです。

平成25年度 英語 I (2年選択) の学習 (シラバス)

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	英語 I	単位数	2	履修学年・区分	第2学年Bコース (選択)
使用する教科書	VISTA English Series I New Edition (三省堂)				

2 学習目標

- ◎ 以下の目標に沿って, 1年生の内容に積み重ねて発展的に英語 I を学習します。
- ・ボキャブラリの充実
 - ・基礎的な英文法の定着
 - ・英語を使ったコミュニケーション力の伸長
 - ・異文化に対する興味や関心の増強

3 学習方法

- 1年生の時と同様に, 以下の3点に留意して学習しましょう。
- ① 高校での学習の基本は授業です。先生の話をよく聞く。大事なところを確実にノートに書きとる。電子辞書をたくさん使う。宿題をしっかりとやる。課題をきちんと提出する。これらのことを着実にこなせば, どんどん英語の力はつきます。進路希望実現を目指して, 「授業を大切に」勉強しましょう。
 - ② 次の授業に備えての予習やその日に学習したことの復習は, 英語学習に不可欠です。毎日机に向かい, 教科書を開く。その習慣を身につけましょう。
 - ③ 定期考査の準備は, 時間をかけて精一杯やりましょう。テスト対策は, 学習したことを確実に身につけるための最高の機会です。しっかり準備すれば高得点に結びつきます。高得点は自信を生みます。「準備→高得点→自信」, このサイクルを手に入れましょう。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	L7 Happy Birthday to You! 誕生日にまつわる各国の慣習について学ぼう。	動名詞の用法について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・動名詞の使い方を理解できたか。 ・新出言語材料は身についたか。
	L8 Oki, an Ainu Musician アイヌ民族や伝統文化について学ぼう。	現在完了とhow to ～の用法について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・現在完了のはたらきを理解できたか。またhow to ～を用いた表現ができるか。 ・新出言語材料は身についたか。
	Jump-up English	1. 代名詞 2. be動詞の用法 3. 一般動詞の用法	・代名詞を正確に用いて表現することができるか。 ・主語や時制に対応して, be動詞の使い分けができるか。疑問文及び否定文への書き換えはできるか。 ・主語や時制に対応して動詞を活用できるか。また, 疑問文及び否定文への書き換えはできるか。

第2学期	L9 Footpaths 「フットパス文化」を知り、 景観保全について考える。	受け身の用法について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・受け身を用いた表現ができるか。 ・新出言語材料は身についたか。
	L10 Finding My Way 挑戦することの大切さを学ぼう。	関係代名詞の用法について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・関係代名詞のはたらきを理解できたか。 ・新出言語材料は身についたか。
第3学期	Jump-up English	4. 疑問詞 5. 進行形 6. 助動詞 7. 不定詞	・疑問詞の意味とつづりを確実に覚えることができたか。 ・進行形進行形を用いた表現ができるか。また、疑問文及び否定文への書き換えはできるか。 ・いろいろな助動詞の意味とつづりを確実に覚えることができたか。また、疑問文及び否定文への書き換えはできるか。 ・不定詞の意味と用法を理解することができたか。
	L11 Landmines 地雷の実態に触れることを通して、戦争や平和について考えよう。	分詞の形容詞的用法について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・基本動詞の活用を覚えることができたか。また分詞が形容詞的に用いられる機能を理解できたか。 ・新出言語材料は身についたか。
第3学期	L12 The Bus Boycott 人種差別について考えよう。	使役動詞と知覚動詞の用法について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・使役動詞と知覚動詞を用いた表現ができるか。 ・新出言語材料は身についたか。
	Jump-up English	8. 現在完了形 9. 比較	・現在完了形の意味と用法を理解することができたか。 ・意味の違いに応じて、適切に比較変化をさせることができるか。

5 学習評価

評価は、「関心・意欲・態度」「表現の能力」「理解の能力」「知識・理解」の4つの観点に基づいて行います。

評価をする際に最も重視されるのは定期考査の結果です。年に5回実施される定期考査で何点を取ることができたのか。まず、それが大切です。

また、君たちの毎日の学習態度にも注目し、考査の点数と総合して上記の4つの観点に基づき評価を行います。学習態度については、具体的に以下の項目が成績評価の重要な資料になります。

★授業に取り組む姿勢

きちんとした態度で話を聞いているか、ノートをしっかり取っているか、活動に積極的に取り組んでいるかなど。

★提出物 宿題や課題に着実に取り組んで、きちんと提出しましょう。

平成25年度 家庭総合のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	家庭総合	単位数	2	履修学年・区分	2 学年 (1・2 学年各 2 単位の分割履修)
使用する教科書	新家庭総合～ともに生きる くらしをつくる～ (教育図書)				
副教材等	最新家庭科データ☆グラフ				

2 学習目標

- ・身近な生活の中から課題を見出し, 解決に向けて主体的に取り組める能力を養います。
- ・家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけます。

3 学習方法

- ①教科書や補助資料から基礎的知識を学ぶ。
- ②調理実習や被服製作実習を通し, 基礎的技術を身につける。
- ③習得した基礎的な知識・技術を実験や体験を通し, 科学的・理論的に学ぶ。
- ④視聴覚教材や統計資料・新聞等から身近な課題を考える。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学期	《単元》くらしのなかの「食」 ①食生活について考えよう ②栄養と食品 ③食品の選択と取り扱い ④献立と調理 ⑤これからの食生活と環境 ⑥食の文化と伝承 ※家庭科技術検定食物調理 4 級受検対策 (期末考査)	《ねらい》 豊かな食生活を実現させるため, 栄養・食品・調理などについて科学的に理解させ, 必要な技術を習得する。また, 食文化の関心を深めるとともに, 環境に配慮した食生活に実現を目指す。 《具体的活動》 ①講義 ②講義 ③調べ学習 ④調べ学習・講義・実習 ⑤実習 ⑥調べ学習・講義 ※実技・講義	①健康によい食習慣を身に付けることに関心を持つことができたか。 ②五大栄養素の働きとその食品について理解することができたか。 ③食品に関する正しい知識を身に付け, 安全な食生活を実践しようとすることができたか。 ④食事摂取基準を理解し, バランスのよい一日の献立を考えることができたか。また, 調理技術の習得, 食の安全と衛生への関心を持ち, 実習に取り組むことができたか。 ⑤生活者として世界的な食糧事情を理解し, 環境に配慮した食の意識を持つことができたか。 ⑥日本の食文化を調べ, 伝承しようとする態度を身に付けることができたか。
第 2 学期	《単元》人の一生と家族 ①自分らしい生き方を考えよう ②家族について考えよう ③家族・家庭にかかわる法律を知ろう 《単元》高齢者とともに ①高齢者について考えよう ②高齢者とふれ合おう ③高齢社会と高齢者福祉を考えよう 《単元》人のつながりと福祉 ①私たちのくらしと社会福	《ねらい》 人の一生を生涯発達の視点でとらえ, 家族・家庭の意義, 社会とのつながりを理解させる。 《具体的活動》 ①講義 ②実習 ③調べ学習・講義 《ねらい》 高齢者に対する正しい認識から, 介護の基礎など体験的な学びと役割を知る。 《具体的活動》 ①講義・ディベート ②講義・実習 ③調べ学習・講義 《ねらい》 くらしを支える福祉のあり方を理解する。	①家族に関心を持ち, 生き方を考えながら, 自分のライフコースを描けたか。 ②人の一生から家族を考え, 家族の在り方に関心を持つことができたか。 ③家族に関する法律を理解し, 将来の設計に役立てようとすることができたか。 ①高齢者の特徴を理解し, 同じ目線で対応しようとする態度を身に付けることができたか。 ②高齢者の立場で日常介助を考えることができたか。 ③高齢者に対する実態や課題を考え, 高齢社会を理解することができたか。 ①社会福祉の実態を知り, 社会保障制度について理解することができたか。

	社 《单元》子どもとともに ①保育について考えよう ②子どものすこやかな育ちを知ろう ③子どものくらしと親のかかわり ④子どもの福祉を考えよう (期末考査)	《具体的活動》 ①調べ学習・講義 《ねらい》 子どもの発達、保育、福祉をとおして、健全な発達を支える親や社会の役割を理解させるとともに、保育への関心を深める。 《具体的活動》 ①調べ学習 ②講義・実習 ③調べ学習・講義 ④調べ学習・講義	①命の尊さから出産を見つめ、保育に関する事に理解を深めることができたか。 ②子どもの成長過程の理解を深め、知識を生かそうとすることができたか。 ③子どもに関心を持ち、親の役割と社会の関わりについて理解することができたか。 ④子どもの福祉について、少子高齢社会の側面から理解することができたか。
第3学期	《单元》快適な生活と環境 ①私たちのくらしと環境問題 ②持続可能な社会を目指して ③私たちができること 《单元》くらしのなかの「文化」 ①生活文化について考えよう 《单元》ホームプロジェクト (期末考査)	《ねらい》 家庭経済や消費生活の基礎的な知識を習得し、持続可能な社会を目指した消費行動へとつなげる。 《具体的活動》 ①講義・ディベート ②調べ学習・講義 ③調べ学習・講義・実習 《ねらい》 生活にある文化を見直す。 《具体的活動》 ①調べ学習 《ねらい》 二年間の学習から課題を見つけ生活に生かす。 《具体的活動》 ①課題解決学習	①くらしの中にある環境問題に対して、自分のこととして取り組むことができたか。 ②持続可能な社会とは何かを考え、行動に移そうとすることができたか。 ③できることを明確にし、環境問題を理解することができたか。 ①生活文化に関心を持ち、現代に合う取り組み方を考えることができたか。 ①生活課題を主体的に見出し、課題解決に向けて、学習によって習得した知識を適切に活用できたか。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について 以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。	
《評価の観点及び内容》 1 「関心・意欲・態度」 家庭や地域の生活に関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけているか。 2 「思考・判断」 家庭や地域の生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけているか。 3 「技能・表現」 家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけているか。 4 「知識・理解」 家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけているか。	
(2) 評価方法について 具体的な評価方法として以下の三つの項目を数値化し、五段階で評価します。	
1 「定期考査」	各学期末、計3回実施。(70%)
2 「提出物」	ノート、自己評価カード、作品、(20%)
3 「授業態度」	主体的・意欲的な取り組みが見られたか。(10%)